

市長記者会見記録

日時：2020年6月2日（火）14時00分～14時16分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《本市元職員の逮捕について》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

本日の議題は、市政一般となっております。

早速、質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 よろしくお祈いします。今日午前中に警察から発表があったばかりなんですけれども、元市職員の方が爆破予告を送ったというので威力業務妨害容疑で逮捕されているんですけれども、もし事実関係とか把握されていれば、お伺いしたいんですけれども。

【市長】 11時ぐらいに警察から、元市の職員を逮捕したという一報があったと。それ以上の詳細は伺っておりません。

【幹事社】 事実としたら、受け止めはいかがでしょうか。

【市長】 本当に、このことが事実であれば、多文化共生を非常に大事にしてきた本市行政の元職員がこういった行為に及んだということであれば大変悔しいですし、残念ですし、誠に遺憾なことだと思っております。

《市立学校の再開について》

【幹事社】 あと、また話題が変わるんですけれども、昨日から小学校とか中学校が再開していますけれども、他都市だと小学校でクラスターみたいな話も出たりしていますけれども、改めて保護者の方とか児童・生徒さんにメッセージみたいなものがあればお伺いしたい。

【市長】 学校でも感染対策をしっかり行って、細心の注意をもって努めていますので、安心して勉強に来ていただきたいなと思います。現時点でもどうしても心配だという方については、欠席扱いにしないという対応を取らせていただいておりますので、そのところは本当にどうしてもという方についてはそういう配慮をさせていただいております。

【幹事社】 あと、先週、市の職員の方の感染が新たに出たりしましたけれども、改めて市の職員の方への対策なりというのは何かお考えはありますか。

【市長】 市の職員かどうかというよりも、こういうことはずっと起こり得るんだと。誰にでも感染して、ゼロにはなかなかならないということなんだと思います。ですから、これをしっかり、3密を避けるとかそういった感染予防対策をこれまでどおりしっかりやっていくということが原則ですし、それは市の職員もそうですし、市民の皆さん全員がそういう思いでやっていただきたいと思います。

《申請のオンライン化について》

【幹事社】 同じく幹事社です。よろしくお願ひします。昨日開会の提案説明の一番最後で、申請のオンライン化というものの検討もされていくということをおっしゃっておりまして、改めて、これ、どれぐらいのスケジュール感で、具体的にどういうものを検討されておられるのか。多分、この話、区役所の機能再編みたいなものとセットになってくるのかなとも思っているんですけども、その辺のスケジュール感を教えていただけますか。

【市長】 まだスケジュール感って、何をどこでという形には落とし込めてないんですが、今後、申請だとか手続だとかを原則オンライン化していかななくちゃいけないというのは、これは法律でもそういうつくりになっていますし、それをもう原則にしていくというように、シフトしていくというよりも本当にスイッチしていくという形が必要なのではないかと思っています。御指摘のとおり、新しい区役所とかという話になりますと、あるいは、新庁舎、働き方というのにかなり影響が出てくると思いますので、その辺りは内部的には少し話を始めているところです。

《経済対策の意思決定プロセスについて》

【幹事社】 分かりました。また、臨時議会と定例会の代表質疑の中でも、今回の経済対策に関する意思決定のプロセスというものに対する議員さんからの質問はかなり出ていたかと思ひます。これ、例えば議事録が残っているようなものなのか、プロジェクトチームの中で協議して決定したということは伺ってはいますけれども、どういうエビデンスを持って、どういう議論の積み重ねを経て、このタイミングでのこういう意思決定になったのかということは、分かりやすい形で御説明いただくようなことは可能なんでしょうか。

【市長】 どう御説明したらいいんですかね。今、56のメニューというのを一つ一つそういう形で積み重ねてきたので、どこが何で決まってということを詳細に御説明するのって非常に難しさはあると思ひます。なるべく迅速に取り組まなくちゃいけない

と言っても、大切な公金を使うわけですから、その透明性はなるべく担保されなくちゃいけないとは思っていますし、これからもそのように心がけていきたいとは思っています。

《公文書管理について》

【幹事社】 ちょっと話がずれるというか、政府でも専門家会議の議事録が今のところないという状況だったりですとか、やはりそういう意思決定のプロセスを後になって検証する、検証可能な形にしておくためにも、どういう形で話合いが行われたのかというものは文書で残しておく必要があるんじゃないかと私としては思っているんですけども、例えば、今回のプロジェクトチームの議論みたいなものは議事録で残っているようなものなんでしょうか。

【市長】 メモというものはあるはずですが、ただ、議事録という形で、要は、内部の会議というものはメモ程度のもものは当然残すと思います。全くないということはありません。ですけど、正式に議事録っぽいものがあるかといったら、恐らくないと思います。

【幹事社】 川崎市の情報公開条例の対象だと、職員の手書きのメモというのは対象の範囲になっていないので、それは恐らく公開可能な形で公開という文書にはなっていないのかなと思うんですが、その辺が、先般も文書管理の在り方、メールが削除されてしまっている、メールが公文書として、時期が、かなり早いタイミングで削除されてしまっている話だとか、文書の管理の在り方って先般御指示されたかと思うんですけども、あれの進捗の状況はどのようなんでしょうか。

【市長】 全体のですか。すみません、ちょっと、それ、確認をしております。確認したいと思います。

【幹事社】 分かりました。

幹事社からは以上です。各社さん、どうぞ。

【記者】 先ほどの職員さんの警察が発表した件なんですけれども、逮捕された人は、要職というか、川崎市の中での役職はどうだったんでしょうか。幹部だったとか、どういう役職だった人かということを知りたいんですけれども。

【市長】 管理職ではなかったと思います。

【記者】 先ほどの逮捕の件について、市長、多文化共生を大事にしてきた本市職員がとおっしゃったけれども、今回の逮捕容疑、昨年の学校に対する爆破予告ですけれども、ふれあい館の爆破予告をはじめ、年明けに幾つか類似の事案がありましたが、多文化共生を大事にしてきたとわざわざおっしゃるということは、そこは関連性があ

るとお考えなんでしょうか。

【市長】 これ、捜査の話なので何とも言えないんですが、関連はあるのではないかとはいっております。断定すると、私、捜査機関ではないので何とも言いづらいんですが、関連性はあるのではないかと考えています。

【記者】 それは何か、今日言われたとか、これまでの捜査の中でそういうことがあったとか、あるいは、市の調査の中でこれらは関連しているということが分かっているとか。

【市長】 いわゆる、同じ職員の名前をかたっているという意味では共通性があると思っていますので、恐らく偶然の一致というのは考えづらいのではないかとはいえません。

【記者】 ふれあい館も同じ職員の名前なんですね、宛名。

【市長】 のはずです。

【記者】 分かりました。

【記者】 今に関連してなんですけれども、宛名を実在する職員の方を使っていたということなんですけれども、職員間同士のトラブルだったりとかというのは現時点で把握されているんですか。

【市長】 いや、把握しておりません。

【記者】 全く？

【市長】 はい。

【記者】 分かりました。

《新型コロナウイルス関連について》

【幹事社】 自粛の解除から1週間ぐらいたって、まちにはかなり人が戻ってきているのかなとも思います。一方で、先ほどおっしゃったように、急にまた元どおりというのはなかなか難しいのかなと思うんですけれども、市長、まちの様子なんかを見ていて、自粛解除、緊急事態宣言を解除という、措置の解除というものの現状、まちの様子を見て、どういうふうに見ておられるか。

【市長】 予想はしておりましたが、消費行動というか、例えば、飲食店だとかといったところに客が戻ってきているかといったら、決してそんなことなくてと思っております。やはり聞こえてくるのは、皆さん、非常に慎重だよねと。慎重ということはいいいことでもあるんですが、一方で、なかなか景気のV字回復みたいのは先が遠いのかなという印象を受けています。

【幹事社】 これも、またさっきの話と関連してくるんですけれども、必要な経済対

策は今後もというようなことも議会でもおっしゃっておられたかと思います。V字回復がいつになるのか、回復期はいつになるのか分かりませんが、現状の課題というのが、真っ先に手を打たなければいけないのはどれなんだろう。いろんな経済対策も既に表明されておられますけれども、次はどこに手をつけようというお考えか。

【市長】 厳しさは依然残っていますし、これからもかなり続くのではないかな。それは業種を問わず、かなり厳しい状態が長く続くと思いますので、いわゆる、単発的な給付というのが、一瞬のあれにはなるかもしれませんが、中長期のことはどういものが可能なかというのは、国でも考えるでしょうし、私たちとしてもどういことが可能なかというのは常に考えていかなきゃいけないと思っています。

【幹事社】 秋の花火大会だとか国際マラソンだとか、秋のイベントというものも既に、市の主催のイベントでも中止になっているものもあります。先般も、まだまだ元どおりになるというのはもっと先だということもおっしゃっておられましたけれども、ある種の非常事態というのはいつまで、今のところ、市としては考えておられるのでしょうか。

【市長】 これ、今、例えば、飲食店に行かないということも、やはり安全というか、安心の問題という気持ちの、心理的なものは消費行動にはもろ関係する話ですので、安心というのを究極に求めてしまうと、ワクチン開発だとか、本当に特効薬が待たれるという話になってしまうので、そこまではとてもじゃないけれども待ってられない話なので、本当に、今、いろんな事業者さん、感染対策、予防対策をやっている中で、そういう中で大丈夫だよというのが徐々に浸透していくのではないかなど。安心の部分なので、これは本当に雰囲気の問題だと思いますね。そういったところをちゃんとやっているよ、感染予防対策をやっているよという事業者さんたちが取り組んでいる姿勢を見せていただくというか、私たちもそれを応援していかなきゃいけないとは思っています。

【幹事社】 もう1点だけ。昨日の代表質疑で、伊藤副市長が議会との連絡というのをもっと改善していく必要があるという意味で、ある意味、陳謝されたかなと思っています。この間の議会とのいろんなやり取り、食い違った部分もあるのかなと認めてもいますけれども、改めて副市長に議会との連絡の取り方というのは、市長から何かしら御指示なり、もうちょっとちゃんとやってくれというような話はされたのかどうなのかということ。

【市長】 そういう話もしていますし、私自身、正副議長と先日、お話をさせていただいて、やはりコミュニケーションをよくやっていきたいと思います。なかなか、かちっ

とお答えできないようなものについても情報共有をしていくということは、この非常時ですから大切かなという話もさせていただいて、その辺り、うまくお互い知恵を出し合ってやっていきたいと思いますという話をいたしました。

【幹事社】 なるほど。分かりました。ありがとうございます。

【記者】 先ほど、安心感という話につながるかと思うんですが、学校が昨日始まったと思うんですけど、保護者のほうで行かせたくないというような動きはどれくらいあったんでしょうか。

【市長】 数校に教育委員会事務局から確認をさせていただいて、ゼロ人ですというところもあれば、本当に一、二名という、数名というところもあると聞いています。全部を調べたわけではありませんけれども。

【記者】 じゃ、予想というんでしょうかね、そういうのと比べたらどうでしたかね。学校に行かせたくないという親は、事前に思っていたのと比べれば。

【市長】 これ、感覚的な話で申し訳ないんですけど、私はもう少し多いのかなという気はしましたけれども、非常に皆様、冷静に判断していただいているのではないかなと思っています。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【市長】 学校からの連絡というのも、非常によく伝わっているんだと思います。

【記者】 なるほど。分かりました。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で市長記者会見、終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355